

## 4. 江戸の垂直性の形象

本章では、江戸において垂直性がどのように形や場に表れてくるのかを「垂直性の形象に関する作法」として13項目にまとめる。

#### 4.1. 江戸の垂直性の形象に関する作法

本節では、『江戸名所図会』において描かれている江戸の都市空間において、とりわけ特徴のある垂直性の表れ方をベースに、「垂直性の形象に関する作法(以下、垂直性の作法とする)」を13項目にまとめた。各々の型に対して全てが江戸独自の型とは言い切れないが、これら13項目と常識的な高さの作法を組み合わせれば、江戸の都市空間における高さの構成原理が理解できる、というようなものを目指した。

次頁の作法一覧では、垂直性の作法一覧とともに作法の対象を分類した。それは、1. 垂直性単体に関する作法 2. 複数の垂直性の関係性に関する作法 3. その他の作法 とする。

また、作法一覧の次頁では、垂直性の作法の視線に関する性質を5つに分類した。それは、イ. 視線を対象で止める ロ. 視線を水平に流す ハ. 視線を下降させる 二. 視線を一つの対象に定めない ホ. その他 とする。

作法が作り出す形態には以上のような視線を誘導する効果がある。ここで挙げた垂直性の作法の多くは視線を垂直的に上昇させる作法を含まない。ただし、「三角形を好む」や「眺める場所をつくる」といった作法は、その形態や視線を飛ばす主体の感じ方によっては、視線の上昇を誘導する事もある。

作法一覧

A 垂直性単体に関する作法



01. かかげる



02. はためかす



03. 水平を強調する



04. 三角形を好む

B 複数の垂直性の関係性に関する作法



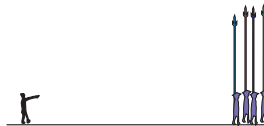
05. 屋根をかける



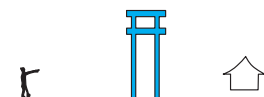
06. 目上にあげる



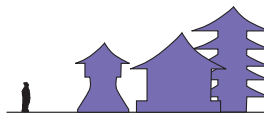
07. 秘める



08. 変化に富む



09. 境界を作る



10. 発散させる

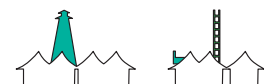


11. 相似形をつくる

C その他



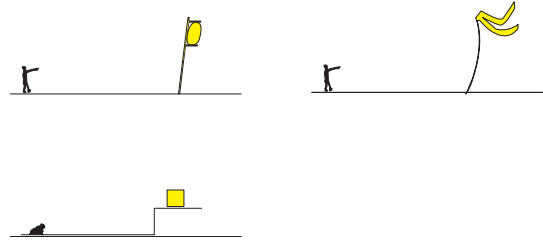
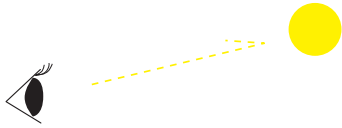
12. 眺める場所をつくる



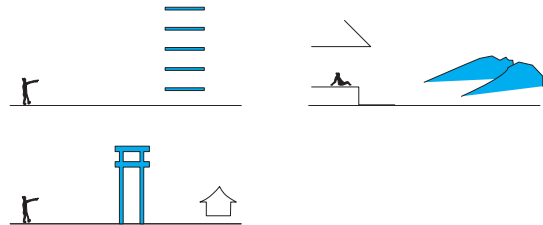
13. 防火を優先させる

作法の視線に関する性質

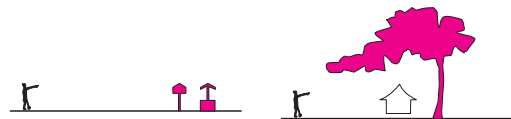
イ. 視線を対象で止める



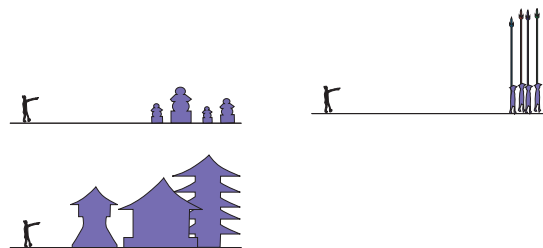
ロ. 視線を水平に流す



ハ. 視線を下降させる



ニ. 視線を一つの対象に定めない



ホ. その他



## 4.2. 作法の説明

### 01. かかげる



大名行列の際に過剰なまでに槍が高く掲げられた。特にそのような機能に特化した「見通し」と呼ばれる槍は、見せる事を目的とした槍であった。その過剰な装飾性は本来の武器としての意味がほぼ消滅してしまっている。それ以外にも大名が休むときに使用する傘なども垂直性を強調した物となっており「かかげる」という動作で身分を表象した。

また、江戸の店は建物の造りに多様性が無いが、看板には多様性があった。それは軒の上に掲げられるもの、軒先に張り出る物、軒先から上方に掲げられるもの、店先に置かれるものなどである。人ごみの多い雑踏の中にある商人も商品を上方に掲げた。

魔除け、願掛けなど宗教的意味合いの物を掲げる事も多く存在した。例えば、屋根の上に取り付けられた鯰や鬼瓦、凧、宗教的行事の際用いる棒、七夕飾りなどが挙げられる。

それ以外に法令を示す高札もこれに当たる。



fig-4-2-1 大名行列の棒



fig-4-2-2 まじないに関する棒  
『名所江戸百景』広重より



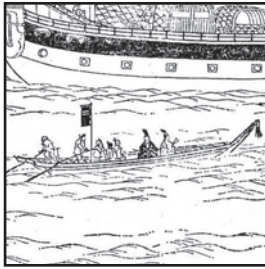
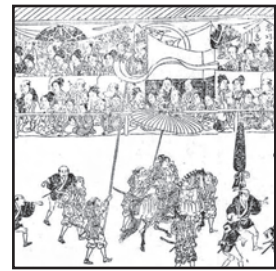
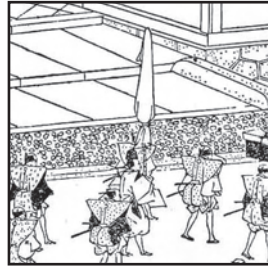
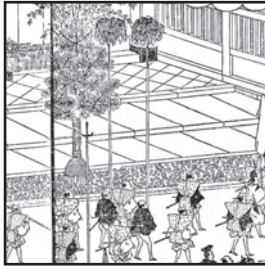
fig-4-2-3 「子供凧あげくらべ」歌川芳虎  
物価高騰を皮肉り、米、乾物などの文字を空に掲げている。『大江戸万華鏡』より



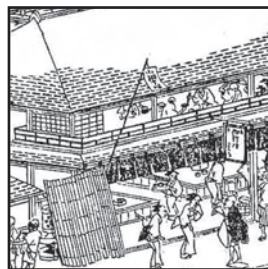
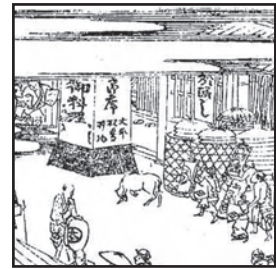
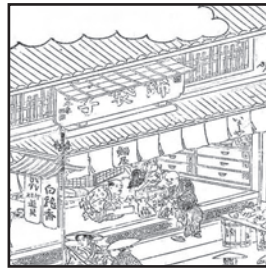
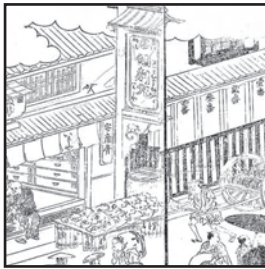
fig-4-2-4 「諸国名所百景  
東都青山百人町星燈籠」二代  
広重 『浮世絵に見る江戸の  
歳時記』より



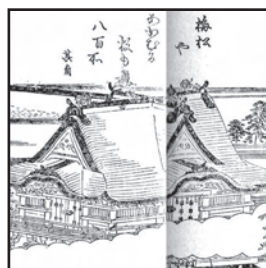
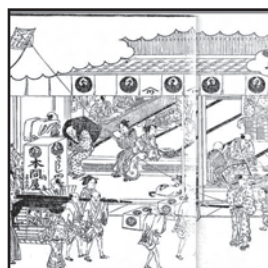
fig-4-2-5 七夕かざり  
『名所江戸百景』  
広重 より



身分を示す



建物の内容を示す（看板）





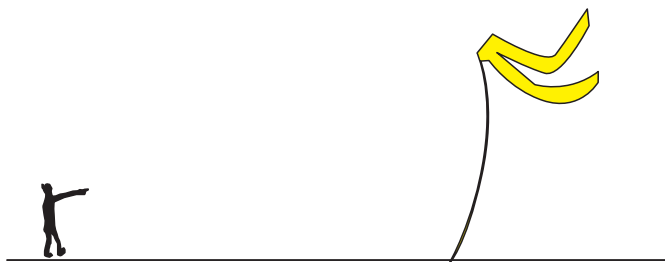


宗教的意味合いを示す



法令を示す（高札）

## 02. はためかす



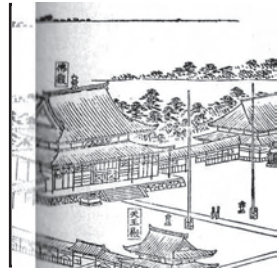
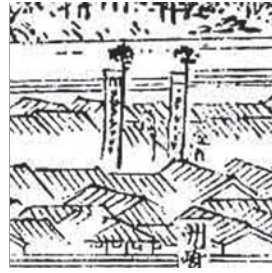
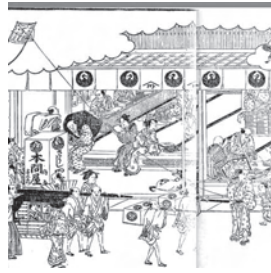
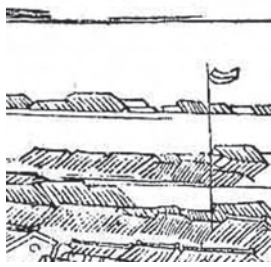
掲げられたものの多くはひらひらとはためく要素を有していた。このようなはためくものが好まれた事は、fig4-2-6にみられるように広重の『名所江戸百景』の画面の前面に大きく取りあげられた物が7点もある事からもわかる。これは多くが、実際に風ではためいている様子が大胆な構図で描写されている。

また、江戸の都市に垂直要素が非常に少ない事は前章までに記述したが、そのような風景のなか、一般住宅の屋根より高く掲げられているもの、例えば鯉のぼりや七夕飾り、のぼりや干されている染め物など多くがはためく形態をとっている事を特筆したい。さらに、このような物は町人のものであり、幕府がはためいている物を高く掲げている例は多くはない。

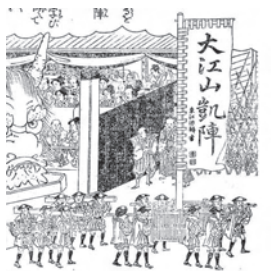
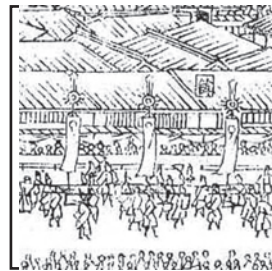
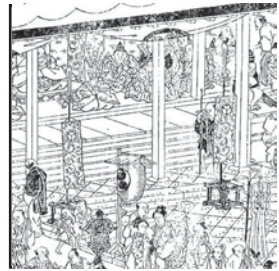


fig-4-2-6 以上、はためくもの『名所江戸百景』広重より

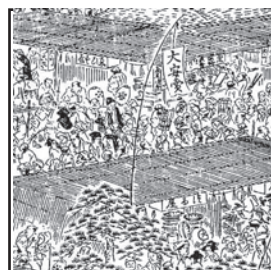




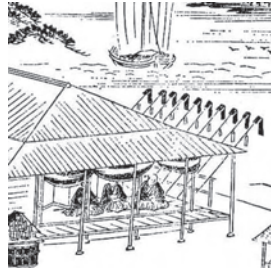
屋根より高くに位置するもの



祭事



店



幕府



その他



### 03. 水平を強調する



城などの楼阁建築や五重の塔から一般的な建築に至るまで、江戸に限らず日本では実に多くの水平性を強調した意匠を目にする事ができるのは周知の事実であろう。そのようなものの多くはプランの面に置いても単純な四角平面を積層させたものであった。

九段下の九段の段差のように坂道において段差をつけたり、坂道に面した屋敷の塀を水平に作り、一定間隔で段々に配す(fig4-2-7)など建築の部位だけでなく都市空間を構成する諸要素にもそのような傾向をみる事ができる。

それ以外に、仮設的な空間の水平性や舞台の水平性を下に挙げた。清水の舞台は地形に対して過剰に水平性が強調されるものである。また、神を降臨させる依り代としての意味合いがある能舞台の形態が矩形でかつ水平的である事も付け加えておく(fig-4-2-9)。

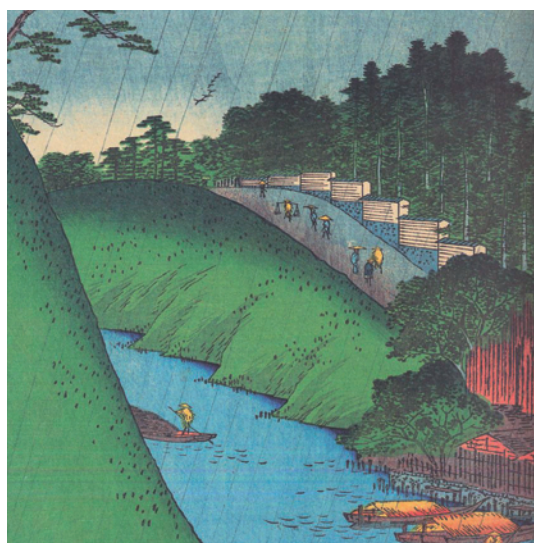


fig-4-2-7 坂道の塀  
『名所江戸百景』広重より



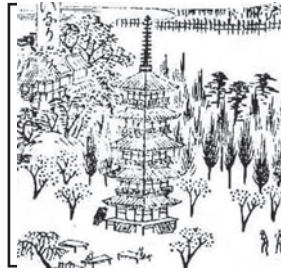
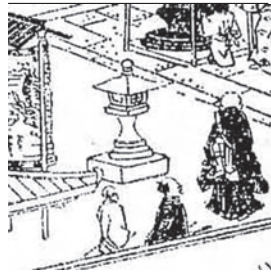
fig-4-2-8 旧江戸城写真 横山松三郎撮影  
『幕末・明治の東京 - 横山松三郎を中心に』より



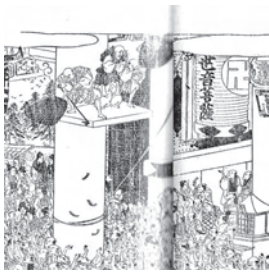
fig-4-2-9 能舞台  
wikipedia より



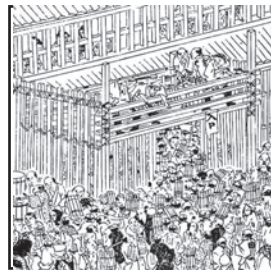
水平部材の積み重ね



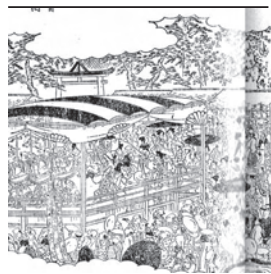
斜路での水平性の強調



仮設的空間の水平性

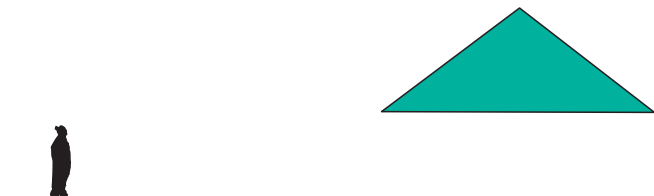


水平的舞台の創出





## 04. 三角形を好む



富士山や大屋根から物の積み方、桶の覆いに至るまで、江戸では様々な場面で三角形をみる事ができる。

また、樹木においても三角形の形は好まれる。能の舞台に描かれている春日大社の影向の松がモデルとされる老松からも分かるように、三角形で構成された葉の形を連ねて、更に三角形を作るといった構成がみられる (fig-4-2-12)。このような美学は盆栽においてもみる事ができる。

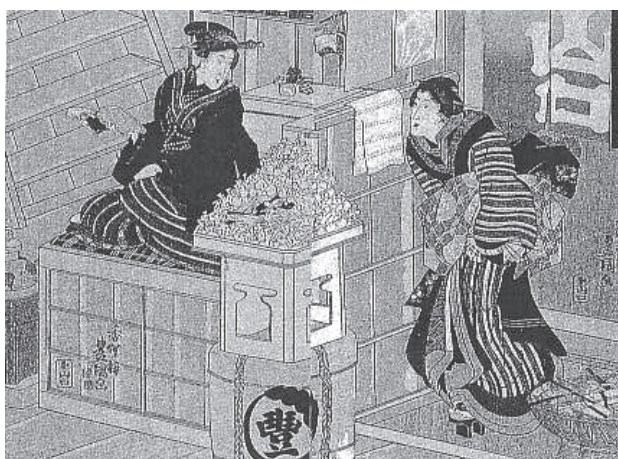


fig-4-2-10 お捻りの山  
睦月わか湯乃図 歌川豊国 (3代目) 『大江戸八百八町展』より

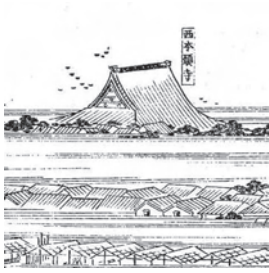


fig-4-2-11 桶の覆い  
『名所江戸百景』広重 より

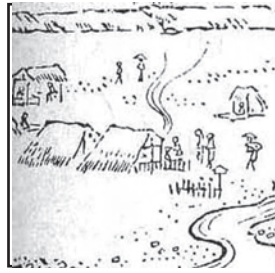


fig-4-2-12 国立能楽堂の松の三角形  
『幽-観世榮夫の世界』より





建物の屋根 1



建物の屋根 2



傘



茶弁当



桶の覆い

かぶせるもの



荷物



桶



丸太

積み方



樹木 1



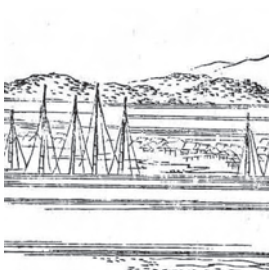
樹木 2



棒の先端



鐘楼の土台

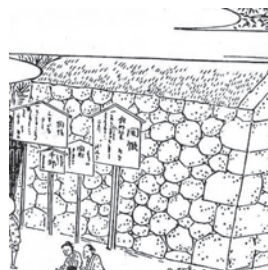


帆

その他



網



立て札